

調査研究に関する研究計画書

提出年月日		令和6年6月18日	部 名	微生物部
調査研究課題		原因不明疾患の病原体検索（ウイルス）		
調査研究体制	主任研究者	新田真依子		研究区分 (小分類)
	その他の研究者	鬼塚咲良、津路優葉、成田翼、水流奈己、矢野浩司		
	調査研究期間	令和7年度～令和9年度（3か年間）		
	調査研究費	予算項目	令和7年度	令和8年度
	国費	千円	千円	千円
	県費	500千円	500千円	200千円
	その他	千円	千円	千円
	合計	500千円	500千円	200千円
調査研究の目的		<p>当所では感染症発生動向調査事業実施要領に基づき搬入された検体について病原体の探索を行っており、感染症の発生及びまん延防止に努めているが、ウイルスによる感染症が疑われるものの原因が特定できずに調査が終了するものが存在する。現状の検査方法では、細胞培養によるウイルス分離及びPCR検査を行っているが、想定外の原因ウイルスが隠れている可能性も否定できない。そのため、次世代シーケンサー(NGS)を用いたメタゲノム解析^{1,2)}で網羅的なウイルス検索を実施し、現状の検査方法では検出できなかった原因ウイルスの特定を行う。</p>		
調査研究内容	研究の実施計画	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年から令和8年までに感染症発生動向調査事業実施要領に基づき当所に搬入され、ウイルスが検出されなかった検体のうち、NGSを用いたメタゲノム解析に適した検体を対象に調査を行う。 現状の検査方法で検出できなかったウイルスについて原因の検証を行い、必要に応じて検出方法の見直しを行う。 		
	技術手法	NGS、メタゲノム解析(Virome)、細胞培養によるウイルス分離		
	年次計画	<p>【令和7、8年度】 平成26年から令和8年までに搬入された検体のウイルス検索及びデータ整理</p> <p>【令和9年度】 現状の検査方法にて不検出となった原因の検証及び、検査方法の検討・見直し</p>		
調査研究の効果等 (行政効果・県民ニーズへの波及効果等)		県内の感染症の発生状況を正確に把握し分析を行うことで、感染症の発生及びまん延の防止に寄与できる。		
備 考	<p>1) 西村瑠佳, 井ノ上逸朗. メタゲノムデータからのウイルス探索とバイローム構築. JSBi Bioinformatics Review 2023 ; 4 : 68-80.</p> <p>2) 黒田誠. 公衆衛生および感染症診断に貢献する微生物ゲノム研究の変貌. モダンメディア 2016 ; 62(7) : 241-249.</p>			